Ⅱ　調査結果の概要

発　育　状　態

１　身長・体重の平均値

平成３０年度及び平成２９年度の幼稚園、小学校、中学校、高等学校における幼児、児童及び生徒の身長・体重の平均値を年齢別にみると、表１のとおりである。

表１　年齢別、身長・体重の平均値

区分		身長（cm）				体重（kg）			
		男		女		男		女	
		H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29
幼稚園	５歳	110.3	110.1	108.8	109.5	18.9	18.8	18.5	18.7
小学校	６歳	116.4	116.2	115.3	115.6	21.3	21.3	21.1	21.2
	7	122.1	122.3	120.9	120.8	23.9	24.0	23.5	23.3
	8	127.6	128.2	126.8	127.3	27.2	27.4	26.1	26.8
	9	133.5	133.2	133.5	133.3	30.3	30.3	30.6	29.9
	10	137.9	138.7	139.9	139.5	33.7	34.2	34.4	33.8
	11	144.9	145.3	146.4	147.0	38.3	38.7	38.8	39.9
中学校	12歳	152.1	151.7	151.3	151.6	43.8	44.1	44.1	44.4
	13	159.3	159.9	154.5	154.2	48.5	49.5	47.9	47.7
	14	164.9	164.8	155.9	156.2	53.4	53.9	50.2	51.1
高等学校	15歳	168.1	168.0	156.6	156.1	59.7	58.6	51.7	51.7
	16	169.3	169.7	157.7	157.3	60.4	60.5	52.9	52.2
	17	170.1	171.0	157.5	157.5	62.3	63.8	53.3	53.6

（1）　身　長

男子の身長は、５歳で110.3㎝、11歳で144.9㎝、14歳で164.9㎝、17歳で170.1㎝となっており、5歳、6歳、9歳、12歳、14歳、15歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の身長差は11歳と12歳、12歳と13歳の間（7.2㎝）が最も大きく、16歳と17歳の間（0.8㎝）が最も小さい。

女子の身長は、５歳で108.8㎝、11歳で146.4㎝、14歳で155.9㎝、17歳で157.5㎝となっており、7歳、9歳、10歳、13歳、15歳、16歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の身長差は8歳と9歳の間（6.7㎝）が最も大きく、16歳と17歳の間（-0.2㎝）が最も小さい。

10歳、11歳で女子の身長は、男子の身長を上回っている。

（2）　体　重

男子の体重は、５歳で18.9kg、11歳で38.3kg、14歳で53.4kg、17歳で62.3kgとなっており、5歳、15歳の各年齢で前年度より増えている。

なお、各年齢間の体重差は14歳と15歳の間（6.3kg）が最も大きく、15歳と16歳の間（0.7kg）が最も小さい。

女子の体重は、５歳で18.5kg、11歳で38.8kg、14歳で50.2kg、17歳で53.3kgとなっており、7歳、9歳、10歳、13歳、16歳の各年齢で前年度より増えている。

なお、各年齢間の体重差は11歳と12歳の間（5.3kg）が最も大きく、16歳と17歳の間（0.4kg）が最も小さい。

9歳～12歳で女子の体重は、男子の体重を上回っている。

2　身長・体重の推移

（1）　身長の推移

①　身長の推移をみると、表２のとおり、男女ともここ数年ほぼ横ばい傾向を示している。

②　親の世代である約30年前(昭和63年度)と比較すると、表２の年齢区分では、男子の身長は、6歳で0.3cm低く、11歳で2.1cm、14歳で1.5cm、17歳で 0.1cm 高くなっている。

女子の身長は、６歳で0.2cm、17歳で0.3cm低く、11歳で1.3cm、14歳で0.1cm高くなっている。

③　表２の年齢区分で全国と比較すると、平成30年度では、男女共、各年齢で全国平均を下回っている。

図1 【身長】男女の比較

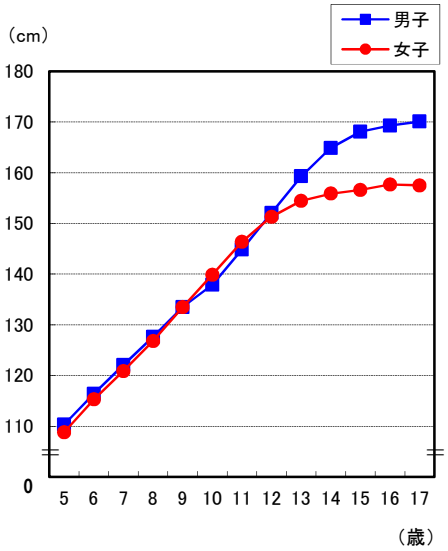
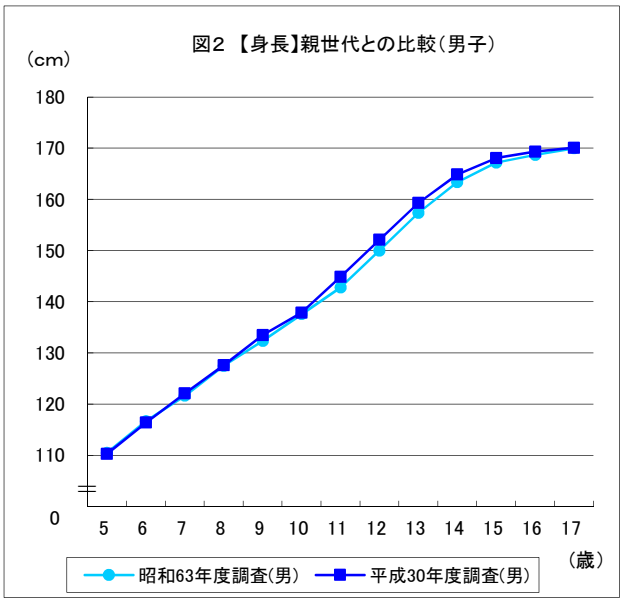
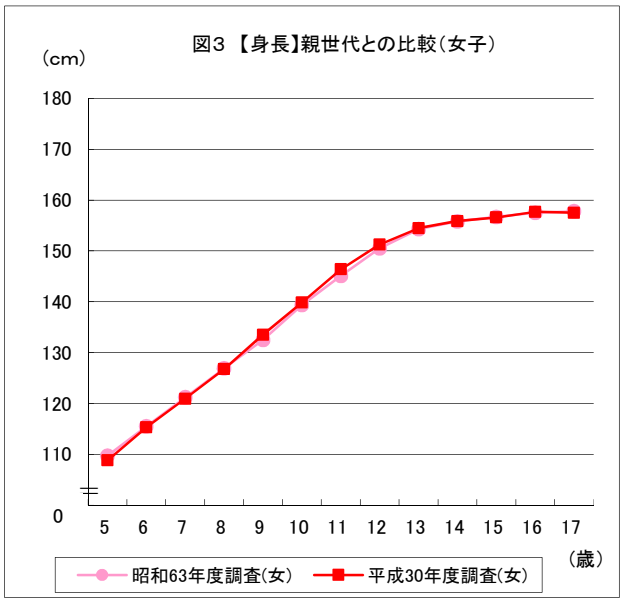


表２　身長の推移

(単位：cm)

区分	佐賀県							
	男				女			
	６歳	11歳	14歳	17歳	６歳	11歳	14歳	17歳
昭和63年度	116.7	142.8	163.4	170.0	115.5	145.1	155.8	157.8
平成10	116.6	144.9	164.5	170.4	115.9	147.1	156.0	157.9
20	116.8	145.1	165.1	170.2	115.7	146.8	156.3	157.7
25	116.7	144.3	164.8	170.5	115.1	147.0	156.2	157.1
26	116.5	144.9	164.8	170.1	115.6	146.5	156.1	157.5
27	116.5	144.9	165.2	171.0	115.9	146.9	156.2	157.4
28	116.3	144.6	165.2	170.7	115.2	146.8	156.4	157.0
29	116.2	145.3	164.8	171.0	115.6	147.0	156.2	157.5
30	**116.4**	**144.9**	**164.9**	**170.1**	**115.3**	**146.4**	**155.9**	**157.5**
区分	全国							
	男				女			
	６歳	11歳	14歳	17歳	６歳	11歳	14歳	17歳
昭和63年度	116.7	144.1	164.1	170.3	115.9	145.9	156.3	157.8
平成10	116.8	145.3	165.3	170.9	115.9	147.0	156.8	158.1
20	116.7	145.3	165.4	170.7	115.8	146.8	156.6	158.0
25	116.6	145.0	165.0	170.7	115.6	146.8	156.5	158.0
26	116.5	145.1	165.1	170.7	115.5	146.8	156.4	157.9
27	116.5	145.2	165.1	170.7	115.5	146.7	156.5	157.9
28	116.5	145.2	165.2	170.7	115.6	146.8	156.5	157.8
29	116.5	145.0	165.3	170.6	115.7	146.7	156.5	157.8
30	**116.5**	**145.2**	**165.3**	**170.6**	**115.6**	**146.8**	**156.6**	**157.8**





④年間発育量

平成12年度生まれ（平成30年度17歳）の年間発育量をみると、表3のとおり男子では12歳時、女子では8歳から10歳時に最大の発育量を示しており、最大発育量を示す年齢は、女子の方が男子に比べ4歳早くなっている。

また、この発育量を親の世代（昭和63年度17歳）と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は親の世代と同じ12歳時となっており、5歳、6歳、8歳、10歳から12歳の各歳時で親の世代を上回っている。

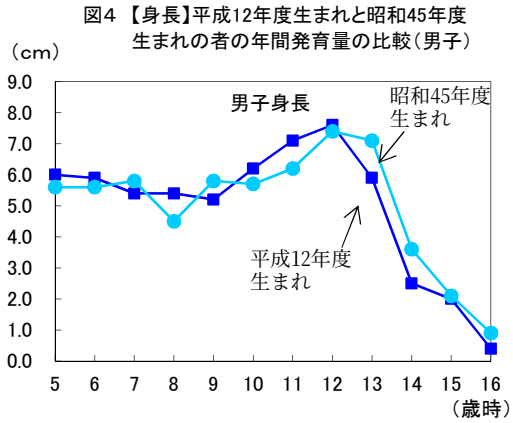
女子については、発育量が最大となる時期は親の世代より1歳早い8歳時となっており、5歳、7歳、8歳、10歳、13歳、15歳の各歳時で親の世代を上回っている。

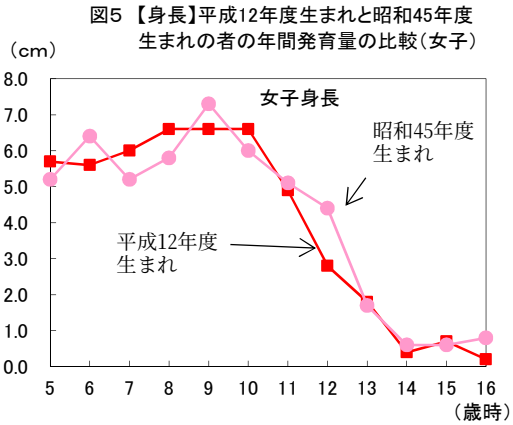
表３　【身長】平成12年度生まれと昭和45年度生まれの者の年間発育量の比較

（単位：cm）

区分		男子		女子	
		平成12年度生まれ(平成30年度17歳)	昭和45年度生まれ(親の世代の17歳)	平成12年度生まれ(平成30年度17歳)	昭和45年度生まれ(親の世代の17歳)
総発育量		59.6	—	47.9	—
幼稚園	5歳時	6.0	5.6	5.7	5.2
小学校	6歳時	5.9	5.6	5.6	6.4
	7	5.4	5.8	6.0	5.2
	8	5.4	4.5	6.6	5.8
	9	5.2	5.8	6.6	7.3
	10	6.2	5.7	6.6	6.0
	11	7.1	6.2	4.9	5.1
中学校	12歳時	7.6	7.4	2.8	4.4
	13	5.9	7.1	1.8	1.7
	14	2.5	3.6	0.4	0.6
高学等校	15歳時	2.0	2.1	0.7	0.6
	16	0.4	0.9	0.2	0.8

注）年間発育量とは、例えば、平成12年度生まれの５歳時の年間発育量は、平成19年度調査６歳の者の身長から平成18年度調査５歳の者の身長を引いたものである。





（２）　体重の推移

①　体重の推移をみると、表４のとおり、男女ともここ数年ほぼ横ばい傾向を示している。

②　親の世代である、約30年前（昭和63年度）と比較すると、表4の年齢区分では、男子の体重は、６歳で0.2kg、11歳で2.5kg、14歳で1.2kg、17歳で1.8kg重くなっている。

女子の体重は、６歳で0.6kg、11歳で1.5kg、14歳で1.0kg、17歳で0.5kg、重くなっている。

③　表4の年齢区分で全国と比較すると、平成30年度では、女子の6歳、14歳、17歳で全国平均を上回っている。

図6 【体重】男女の比較

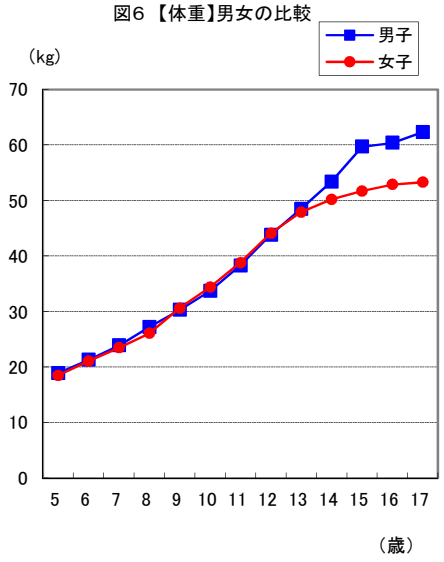
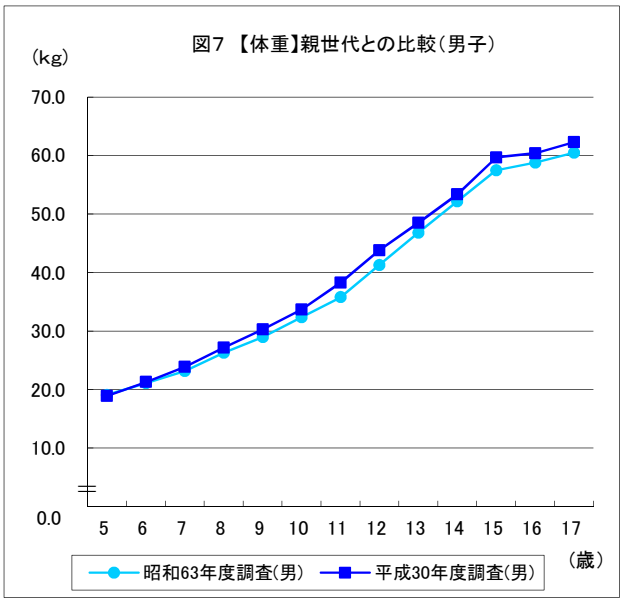
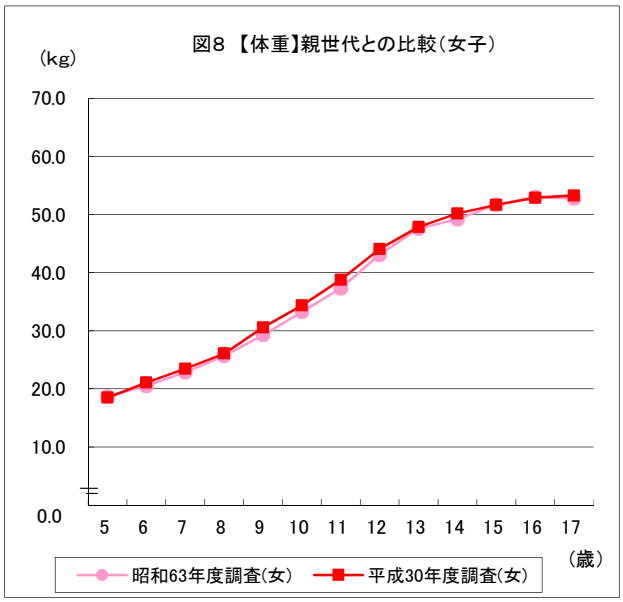


表４　体重の推移　　(単位：kg)

区分	佐賀県							
	男				女			
	６歳	11歳	14歳	17歳	６歳	11歳	14歳	17歳
昭和63年度	21.1	35.8	52.2	60.5	20.5	37.3	49.2	52.8
平成10	21.5	38.7	54.1	62.3	21.2	40.3	50.8	53.3
20	21.6	38.9	54.1	62.6	20.9	39.6	50.5	53.3
25	21.6	37.9	53.6	63.9	20.8	38.9	50.3	52.5
26	21.5	38.6	53.9	62.5	21.0	39.2	50.8	52.5
27	21.4	37.8	54.2	63.0	21.2	39.2	50.4	54.3
28	21.3	38.0	54.2	63.1	20.7	39.6	50.1	53.0
29	21.3	38.7	53.9	63.8	21.2	39.9	51.1	53.6
30	**21.3**	**38.3**	**53.4**	**62.3**	**21.1**	**38.8**	**50.2**	**53.3**
区分	全国							
	男				女			
	６歳	11歳	14歳	17歳	６歳	11歳	14歳	17歳
昭和63年度	21.4	37.4	53.6	61.8	20.9	38.5	49.9	52.7
平成10	21.7	39.4	55.2	62.7	21.3	40.1	50.6	53.1
20	21.5	38.8	54.9	63.4	21.0	39.3	50.4	53.2
25	21.3	38.3	54.0	62.8	20.9	39.0	49.9	52.9
26	21.3	38.4	53.9	62.6	20.8	39.0	50.0	52.9
27	21.3	38.2	53.9	62.5	20.8	38.8	49.9	53.0
28	21.4	38.4	53.9	62.5	20.9	39.0	50.0	52.9
29	21.4	38.2	53.9	62.6	21.0	39.0	50.0	53.0
30	**21.4**	**38.4**	**54.0**	**62.4**	**20.9**	**39.1**	**49.9**	**52.9**





④年間発育量

平成12年度生まれ（平成30年度17歳）の年間発育量をみると、表5のとおり、男子は11歳時、女子は10歳時に最大の発育量を示している。

また、この発育量を親の世代（昭和63年度17歳）と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は、親の世代より2歳早い11歳時となっており、5歳、7歳、8歳、10歳、11歳、14歳、16歳の各歳時で親の世代を上回っている。

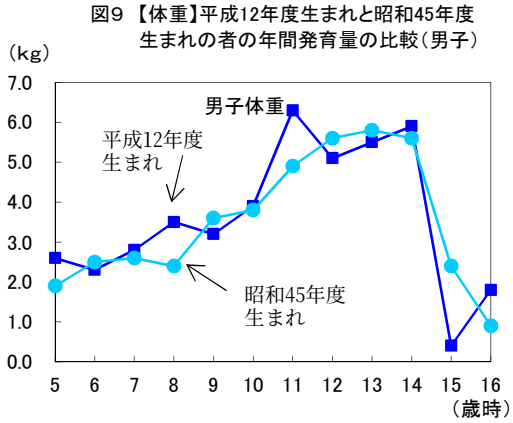
女子については、発育量が最大となる時期は親の世代より2歳早い10歳時となっており、5歳、7歳から11歳、13歳、14歳、16歳の各歳時で親の世代を上回っている。

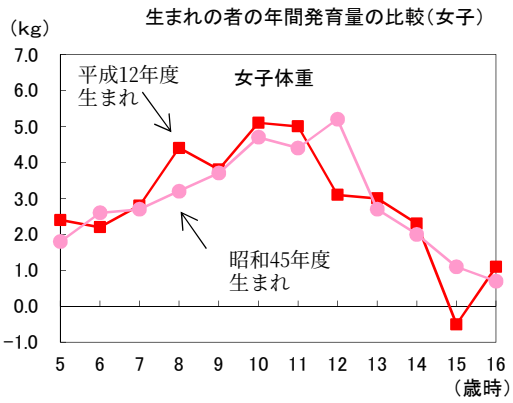
表５　【体重】平成12年度生まれと昭和45年度生まれの者の年間発育量の比較

（単位：ｋｇ）

区分		男子		女子	
		平成12年度生まれ(平成30年度17歳)	昭和45年度生まれ(親の世代の17歳)	平成12年度生まれ(平成30年度17歳)	昭和45年度生まれ(親の世代の17歳)
総発育量		43.3	—	34.7	—
幼稚園	5歳時	2.6	1.9	2.4	1.8
小学校	6歳時	2.3	2.5	2.2	2.6
	7	2.8	2.6	2.8	2.7
	8	3.5	2.4	4.4	3.2
	9	3.2	3.6	3.8	3.7
	10	3.9	3.8	5.1	4.7
	11	6.3	4.9	5.0	4.4
中学校	12歳時	5.1	5.6	3.1	5.2
	13	5.5	5.8	3.0	2.7
	14	5.9	5.6	2.3	2.0
高学等校	15歳時	0.4	2.4	-0.5	1.1
	16	1.8	0.9	1.1	0.7

注)年間発育量とは、例えば、平成12年度生まれの５歳時の年間発育量は、平成19年度調査６歳の者の体重から平成18年度調査５歳の者の体重を引いたものである。





健 康 状 態

1 疾病・異常の被患率状況

疾病・異常の被患率を段階別にみると、表６のとおりである。

疾病・異常の被患率の中で高いものは、裸眼視力1.0未満で、高等学校63.0%、中学校52.3%、小学校38.1%の順となっている。

また、むし歯（う歯）の者は、小学校53.1%、高等学校48.3%、幼稚園44.3%、中学校37.3%となっている。

表６　疾病・異常の被患率　（単位：%）

区分		幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
90%以上									
80%以上～90%未満									
70～80									
60～70								裸眼視力1.0未満	63.0
50～60				むし歯（う歯）	53.1	裸眼視力1.0未満	52.3		
40～50		むし歯（う歯）	44.3					むし歯（う歯）	48.3
30～40				裸眼視力1.0未満	38.1	むし歯（う歯）	37.3		
20～30									
10～20				鼻・副鼻腔疾患	13.7	鼻・副鼻腔疾患	13.1		
1～10	8～10			歯・口腔のその他の疾病・異常	8.5			鼻・副鼻腔疾患	9.7
	6～ 8			耳疾患	6.0			歯垢の状態	7.2
	4～ 6			その他の疾病・異常 眼の疾病・異常 ぜん息	5.0 4.3 4.3	歯・口腔のその他の疾病・異常 歯列・咬合 その他の疾病・異常 耳疾患 歯垢の状態 心電図異常	5.8 5.7 5.4 4.9 4.7 4.1	歯列・咬合 歯肉の状態 その他の疾病・異常 歯・口腔のその他の疾病・異常	5.8 5.5 4.3 4.1
	2～ 4	耳疾患 鼻・副鼻腔疾患 その他の疾病・異常 歯列・咬合	3.8 3.8 3.4 2.9	歯列・咬合 心電図異常 アトピー性皮膚炎 歯垢の状態 栄養状態	3.6 3.3 3.2 2.4 2.0	眼の疾病・異常 歯肉の状態	3.8 2.9	心電図異常 眼の疾病・異常 せき柱・胸郭・四肢の状態 耳疾患	3.7 3.0 2.6 2.3
	1～ 2	その他の皮膚疾患 歯垢の状態	1.6 1.5	せき柱・胸郭・四肢の状態 歯肉の状態 口腔咽喉頭疾患・異常	1.7 1.5 1.4	ぜん息 栄養状態 アトピー性皮膚炎 蛋白検出者 せき柱・胸郭・四肢の状態	1.9 1.8 1.6 1.5 1.4	栄養状態 ぜん息 アトピー性皮膚炎 心臓の疾病・異常	1.9 1.8 1.3 1.0
0.1～ 1	0.5～ 1	歯・口腔のその他の疾病・異常 ぜん息 蛋白検出者 言語障害 アトピー性皮膚炎	0.9 0.8 0.6 0.6 0.5	難聴 心臓の疾病・異常 言語障害	0.9 0.7 0.7	心臓の疾病・異常 口腔咽喉頭疾患・異常	0.8 0.7	蛋白検出の者	0.8
	0.1～0.5	眼の疾病・異常 歯肉の状態 せき柱・胸郭・四肢の状態 顎関節 心臓の疾病・異常	0.4 0.4 0.2 0.1 0.1	その他の皮膚疾患 蛋白検出者 腎臓疾患	0.3 0.3 0.1	難聴 その他の皮膚疾患 顎関節 腎臓疾患 尿糖検出者 言語障害	0.3 0.3 0.2 0.2 0.1 0.1	顎関節 難聴 その他の皮膚疾患 口腔咽喉頭疾患・異常 尿糖検出者 腎臓疾患 言語障害	0.4 0.3 0.2 0.2 0.2 0.2 0.1
0.1%未満				顎関節 結核の精密検査対象者 尿糖検出者	0.0 0.0 0.0	結核の精密検査対象者	0.0		

注）1　「口腔咽頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常等のある者をいう。
2　「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、だ石、癒合歯、要注意乳歯等のある者である。
3　「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。
4　「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。
5　「その他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常の者である。

2 主な疾病・異常の推移

疾病・異常のうち主なものについて、およそ10年間の推移をみると表７のとおりである。

表７　主な疾病・異常の推移　（単位：％）

	区　分	むし歯（う歯）	裸眼視力1.0未満の者	鼻・副鼻腔疾患	耳疾患	心電図異常	ぜんそく息	蛋白検出の者
幼稚園	平成20年度	59.9	X	2.1	1.7	…	2.3	―
	26	45.9	X	2.4	2.1	…	3.2	-
	27	46.5	X	1.8	1.8	…	0.9	-
	28	47.7	X	8.9	1.9	…	2.7	2.9
	29	48.4	X	2.0	1.5	…	3.2	-
	30	**44.3**	**X**	**3.8**	**3.8**	**…**	**0.8**	**0.6**
小学校	平成20年度	70.8	30.8	11.5	5.6	4.2	1.7	0.5
	26	59.8	31.9	13.7	6.2	4.9	3.3	0.9
	27	58.3	33.4	11.9	6.4	4.3	3.3	0.5
	28	56.2	33.6	10.9	6.3	3.5	3.7	0.5
	29	54.5	34.1	12.7	6.5	3.5	2.5	0.7
	30	**53.1**	**38.1**	**13.7**	**6.0**	**3.3**	**4.3**	**0.3**
中学校	平成20年度	56.5	53.1	12.0	5.5	6.0	1.0	1.6
	26	35.1	51.1	13.3	4.5	5.9	1.4	2.1
	27	36.0	52.0	12.3	4.8	6.3	2.0	2.8
	28	34.9	55.2	10.8	3.6	4.4	1.6	1.3
	29	35.1	53.6	10.6	3.5	2.7	1.7	2.3
	30	**37.3**	**52.3**	**13.1**	**4.9**	**4.1**	**1.9**	**1.5**
高等学校	平成20年度	66.9	68.7	11.8	2.6	4.5	1.3	1.8
	26	55.3	53.4	13.8	2.2	5.3	1.2	2.0
	27	55.0	X	8.0	1.8	6.3	1.5	3.4
	28	53.7	X	11.1	2.3	5.0	1.5	2.6
	29	50.0	X	13.0	2.5	5.1	1.7	1.5
	30	**48.3**	**63.0**	**9.7**	**2.3**	**3.7**	**1.8**	**0.8**

（１）　むし歯（う歯）の被患率

「むし歯（う歯）」について、「処置完了者」と「未処置歯のある者」に区分してみると、表8のとおりである。

むし歯の被患率（治療済みの者を含む）は、幼稚園44.3%（全国35.1%）、小学校53.1%（全国45.3%）、中学校37.3%（全国35.4%）、高等学校48.3%（全国45.4%）となっており、すべての学校種で全国平均を上回っている。

表８　むし歯（う歯）の処置完了状況等の推移

(単位：%)

区分 ＼ 年度		H20	26	27	28	29	30	全国（H30）
幼稚園	計	59.9	45.9	46.5	47.7	48.4	**44.3**	35.1
	処置完了者	17.4	18.5	17.1	17.8	19.8	**18.2**	13.6
	未処置歯のある者	42.5	27.3	29.4	29.9	28.6	**26.1**	21.5
小学校	計	70.8	59.8	58.3	56.2	54.5	**53.1**	45.3
	処置完了者	29.8	27.5	27.1	25.7	24.2	**24.1**	23.1
	未処置歯のある者	40.9	32.3	31.2	30.5	30.3	**29.0**	22.2
中学校	計	56.5	35.1	36.0	34.9	35.1	**37.3**	35.4
	処置完了者	30.7	18.9	19.9	18.1	18.2	**19.7**	20.4
	未処置歯のある者	25.9	16.2	16.1	16.8	16.9	**17.7**	15.0
高等学校	計	66.9	55.3	55.0	53.7	50.0	**48.3**	45.4
	処置完了者	36.4	30.3	27.9	27.1	27.0	**26.8**	27.1
	未処置歯のある者	30.5	25.0	27.1	26.6	23.0	**21.5**	18.3

（２）　裸眼視力1.0未満の被患率

裸眼視力1.0未満の者の割合は、小学校38.1%（全国34.1%）、中学校52.3%（全国56.0%）、高等学校63.0%（全国67.2%)となっており、小学校で全国平均を上回っている。

10年前（平成20年度）と比較すると、小学校では7.3ポイント高くなっており、なかでも裸眼視力0.3未満の者は、10年前より3.8ポイント高くなっている。

表９　裸眼視力1.0未満の者の推移

（単位：%）

区分	年度	H20	26	27	28	29	30	全国（H30）
幼稚園	計	X	X	X	X	X	**X**	26.7
	1.0未満0.7以上	X	X	X	X	X	**X**	19.0
	0.7未満0.3以上	X	X	X	X	X	**X**	6.8
	0.3未満	X	X	X	X	X	**X**	0.9
小学校	計	30.8	31.9	33.4	33.6	34.1	**38.1**	34.1
	1.0未満0.7以上	12.4	11.0	12.6	12.0	12.0	**13.2**	12.0
	0.7未満0.3以上	11.1	11.9	12.3	12.7	12.8	**13.8**	12.8
	0.3未満	7.3	9.0	8.6	8.9	9.3	**11.1**	9.3
中学校	計	53.1	51.1	52.0	55.2	53.6	**52.3**	56.0
	1.0未満0.7以上	10.4	12.1	10.4	10.5	9.3	**9.9**	11.3
	0.7未満0.3以上	17.7	16.3	15.1	16.4	15.8	**17.8**	19.2
	0.3未満	25.0	22.7	26.5	28.4	28.4	**24.6**	25.5
高等学校	計	68.7	53.4	X	X	X	**63.0**	67.2
	1.0未満0.7以上	10.3	X	X	X	X	**7.9**	11.3
	0.7未満0.3以上	14.0	X	X	X	X	**13.7**	16.6
	0.3未満	44.3	X	X	X	X	**41.3**	39.3

3 心電図異常

小学校、中学校及び高等学校の各１学年において、心電図検査の異常者の割合を調査した。各学校段階の心電図異常の割合は、表10のとおりである。

表10　心電図異常の割合　（単位：%）

区　分	佐賀県					全国				
	H26	27	28	29	30	H26	27	28	29	30
小学校１年	4.9	4.3	3.5	3.5	3.3	2.3	2.4	2.4	2.4	2.4
中学校１年	5.9	6.3	4.4	2.7	4.1	3.3	3.2	3.3	3.4	3.3
高等学校１年	5.3	6.3	5.0	5.1	3.7	3.3	3.3	3.4	3.3	3.3